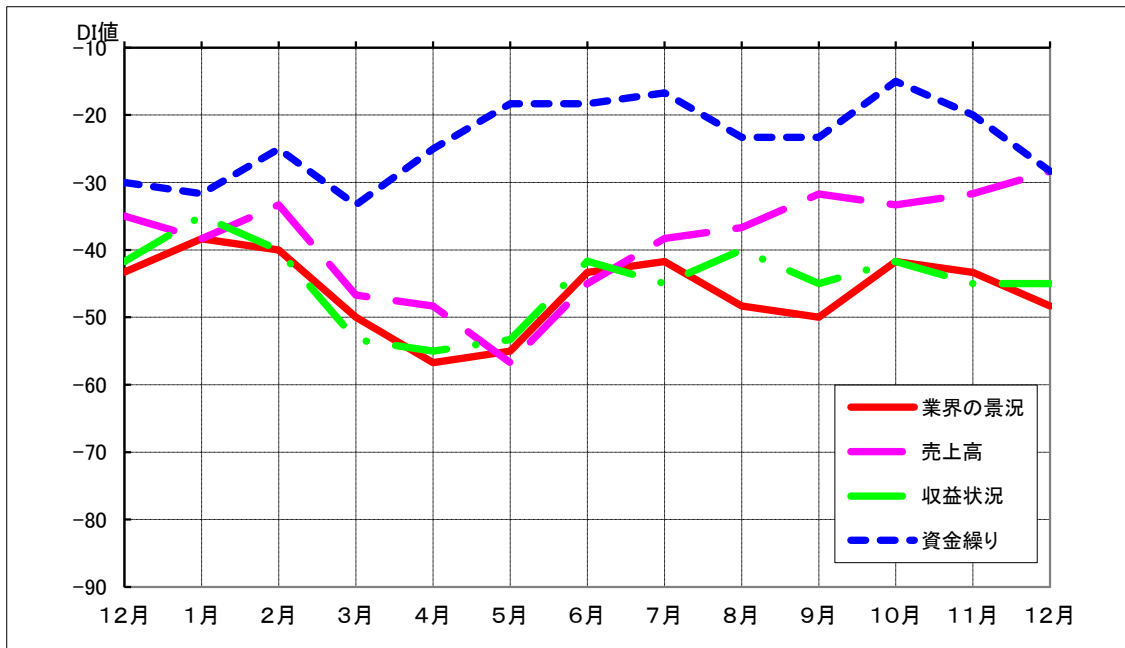


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成22年12月～平成23年12月

(にいがた中小企業情報掲載用)

単位:ポイント



H22 H23

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
業界の景況	-43.3	-38.3	-40.0	-50.0	-56.7	-55.0	-43.3	-41.7	-48.3	-50.0	-41.7	-43.3	-48.3
売上高	-35.0	-38.3	-33.3	-46.7	-48.3	-56.7	-45.0	-38.3	-36.7	-31.7	-33.3	-31.7	-28.3
収益状況	-41.7	-35.0	-40.0	-53.3	-55.0	-53.3	-41.7	-45.0	-40.0	-45.0	-41.7	-45.0	-45.0
資金繰り	-30.0	-31.7	-25.0	-33.3	-25.0	-18.3	-18.3	-16.7	-23.3	-23.3	-15.0	-20.0	-28.3

○12月のDI値は前年同月に比べ、2項目で改善し、2項目で悪化した。「売上高」DI値は6.7ポイント、「資金繰り」DI値は1.7ポイントとそれぞれ改善し、「業界の景況」DI値は5ポイント、「収益状況」DI値は3.3ポイントとそれぞれ悪化した。前月比で見ると、「売上高」DI値は3.4ポイント改善し、「業界の景況」DI値は5ポイント、「資金繰り」DI値は8.3ポイントとそれぞれ悪化した。「収益状況」DI値は前月と同値であった。

製造業においては受注の減少や企業間における受注量の格差発生、非製造業では売上高の減少が前月に引き続いて見られる。長引く円高や消費・需要の停滞の影響が大きく、一部緩やかに改善に向かっている業種があるものの、総体としては先行きを憂慮する声が高まっている。

○組合の特記事項からは、製材業では東日本大震災の本格的な住宅資材の注文がまだ入っておらず、苦しい状況が続いているとの声が、機械器具製造業では取引先の海外展開が増加しており、受注量の減少が懸念されるとの音が出ている。商店街ではデフレ不況によって買い物客の消費に対する目が厳しい様子であるとの音が、広告業では復興財源による工事が発生すると思われ、政府の景気対策に期待したいとの音があった。また、行政庁・中央会に対する要望事項として、景気向上策の積極的な推進を望む音があった。